



(題字 : 6年 片山 こなつ )

令和2年10月2日

No.32号

山形市立第四小学校  
校長 日高 伸 哉

<児童数 205名>

TEL 623-6019

## 創立109周年 記念式 (10 / 1) ～たくさんの方々に支えられて、110歳への出発～

昨日は、本校109回目の誕生日でありました。コロナウイルス感染対策を万全にして、創立109周年記念式を執り行いました。奨学会会長の矢野健太郎様、同窓会会長の矢野秀弥様をはじめ、市議会議員様、歴代の校長先生方、卒業生がお世話になる山形五中校長先生、同窓会役員・奨学会顧問の皆様、町内会各地区会長様や地区各種団体役員様、そして奨学会役員様方等、31名のご来賓の方々をお迎えし、心あたたまる記念式になりました。奨学会会長様からは、30年前の第四小の様子や当時の大いちょうの剪定のお話などを伺い、第四小に流れる連綿とした伝統を肌で感じることができました。また、同窓会会長様からは、世界的な難局であるコロナ禍における大切な気づきとして、世界の中のつながりと普段の対話の重要性をご教示いただき、世界に羽ばたく人財への期待とお励ましをいただきました。心から感謝申し上げます。

### 学校長式辞

今日は、とてもうれしい日です。

本日、ここに、奨学会会長矢野健太郎様、同窓会会長矢野秀弥様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席のもと、創立109周年記念式を迎えられますことは、205名の子どもたちと教職員の大きな喜びであります。先ずもって、心より厚く御礼申し上げます。学校の誕生日にあたり、ここに集う皆さんと一緒に願うことを、二つお話しします。

一つ目です。本校では、明治44年の創立以来、多くの皆さんが学んできました。卒業生は、ざっと一万五千人を越える計算になります。昨年の卒業生である、たんぼぼ学年の先輩は、文集「いちょう」に、こんな詩を書き残してくれました。読んでみます。

#### 『学校に行く』

朝 学校にいきたくない時がある／昨日 怒られたから／学校に行く／友達と笑う／やっぱり楽しい

朝 学校にいきたくない時がある／昨日 友達とケンカしたから／でも学校に行く／友達とあいさつする／やっぱり楽しい

朝 学校にいきたくない時がある／きれいな教科があるから／でも学校に行く／友達と勉強する／やっぱり楽しい

朝 学校にいきたくない時がある／でも みんなに会いたいから／学校に行く／みんなと過ごす／最高に楽しい

どんなときも／優しく受け止め／なぐさめてくれる／受け入れてくれる／

そんなみんなに会いたい／だから今日も学校に行く

卒業した皆さんが、このように、第四小学校をととても大切に思い、ここで学んだこと、仲間とともに成長できたこと、先生方と共に生活を創りあげられたことを誇りに思っています。と同時に、第四小学校には、長い年月とともに、この学校に関わり、温かく見守ってくださった多くの人たちの願いが込められています。

私たちは、これらの多くの人たちの支えがあって、今、こうして、楽しく学習や生活ができているのです。まずは、そのことをしっかりと心に留めなければなりません。そして、そういう環境に身を置いていることに、心から感謝をしなければならないと思うのです。

一つ目の願いは、「ありがとうの心を忘れまい」と言うことです。

二つ目です。

卒業生の作文にこのような思いも綴られていました。

『私は、三年生の時に、第四小に転校してきました。一日目のそうじの日、私は、びっくりしたことがあります。それは、雑巾をする時に、ダッシュぶきをしないことです。同じそうじだった六年生に、「四小は、いちょうぶきで雑巾をやるんだよ。」と教えてもらいました。最初のころは、どういう理由で、いちょうぶきをするのかわからないままやっていました。六年生が、「ダッシュぶきよりも、丁寧にふけるから、いちょうぶきなんだよ。」と理由を教えてくださいました。それからは、すき間をあけずに、丁寧にやるように心がけてきました。

そして、私は、六年生になり、クルーズ班の班長にもなりました。一年生の初めてのそうじの日、私は、一年生にいちょうぶきのことを教えました。

「いちょうぶきってというのは、こうやってやるんだよ。すき間があかないように、丁寧にやってね。最初は、時間がかかってもいいから、丁寧にだよ。丁寧に。」と言いました。……（そして最後にこう綴られています。）

私が、四小で感じたこと・学んだことは、伝統ということの大切さです。今までの先輩達が伝統をつないできてくれて、それを受け継ぐということの大切さ、大変さが分かった気がします。』

これまで、ずっと先輩の姿を見ながら受け継いできた六年生がいたからこそ、第四小学校の良さが守られてきたのです。人は変わっても、変わらない『大切な心と形』。二つ目の願いは、「伝統という『大切な心と形』をしっかり受け継いでゆこう」と言うことです。

世界を揺るがすコロナ禍の中で、たくさんの困難が生じていますが、剪定により、さらに緑を増した生命力溢れる大いちょうのように、はつらつと困難に立ち向かい、「感謝の心」と「伝統」を大切にしながら、より豊かな学びを創り続けてゆきましょう。

結びになりますが、本日ご臨席をいただきましたご来賓の皆様には、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

令和二年十月一日 山形市立第四小学校長 日高 伸哉

また、6年生あおぞら学年の伊藤朱来君が「ぼくと四小と音楽」と題して、児童代表のあいさつをしました。本校での音楽との出逢い、担任との出逢いを通して成長の喜びを語ってくれました。何と嬉しいことでしょう。その後、管弦楽部の素敵な伴奏により、会場全員で高らかに校歌を合唱し、体育館一杯に心のハーモニーを響き渡りました。

今日10月2日は、110歳に向かったの「第1日目」。

新たなステージに向かったのスタートです。大いちょうも見守ってくれています。